

JAPAN SPATIAL DAY (Virtual)

CONNECTING USERS, ADVANCING SPATIAL BIOLOGY

7th Dec 2023 9:00 AM – 11:10 AM

AKOYA
BIOSCIENCES®
THE SPATIAL BIOLOGY COMPANY

この度、バーチャルイベント「Japan Spatial Day」を開催する運びとなりました。Spatial Dayは、空間生物学における最新の情報や最先端のアプリケーションが、様々な疾患領域における発見やトランスレーショナルリサーチの重要な問題解決に、どのように活用されているかを共有するために、研究者の皆様が一堂に会することを目的としています。

Learn more
and Register!



Speakers:



シングルセル分子病理解析による心臓疾患の病態解明と臨床応用

野村征太郎, 特任准教授
東京大学大学院医学系研究科 循環器内科



Vectraシステムによる、ヒトがん組織に浸潤する免疫担当細胞の同定と定量

佐藤永一, 准教授
東京医科大学医学総合研究所 病理・画像部門



Scaling up Spatial Discoveries with PhenoCyler-Fusion 2.0

Niyati Jhaveri, PhD
Content Development Manager, Akoya Biosciences



Transforming biomarker development for cancer immunotherapy with Spatial 2.0

Ning Ma, PhD
Team Lead, New Product Implementation and KOL Support,
Akoya Biosciences



シングルセル分子病理解析による心臓疾患の病態解明と臨床応用

野村征太郎, 特任准教授

東京大学大学院医学系研究科 循環器内科

要旨

心臓には心筋細胞以外にも免疫細胞・線維芽細胞・内皮細胞など種々の細胞が存在する。特に、免疫系の異常により炎症性の心臓疾患を発症し、その予後は極めて悪い。我々はマルチプレックス免疫染色を用いたシングルセル分子病理解析によって、これらの疾患における細胞の空間的特徴・分子プロファイルを詳細に把握している。さらに他のモダリティの解析手法と統合することによって、病態の深い理解や臨床応用に資するバイオマーカーの同定を進めている。



Vectraシステムによる，ヒトがん組織に浸潤する免疫担当細胞の同定と定量

佐藤永一, 准教授

東京医科大学医学総合研究所 病理・画像部門

要旨

各種の蛍光多重標識法のうち，Tyramide Signal Amplification (TSA) 法を用いた多重標識法は，ホルマリン固定・パラフィン包埋された生体検査検体や外科的に切除された検体を用いた検索に最も適していると考えられる。

我々はがんの手術検体を用いて，腫瘍内に浸潤する各種免疫担当細胞の細胞表面マーカーや転写因子の発現を多重標識法で検出し，それらの浸潤を定量的に評価している．細胞系譜の同定に用いるパネル，細胞を同定する工程，標的細胞の浸潤数の評価について，実例をしめして紹介する．